

第 1 回 千鳥ヶ淵の環境再生に関する勉強会 議事要旨

日時：平成 22 年 9 月 8 日（水） 15：15～17：15

場所：環境省皇居外苑管理事務所会議室

要旨：

- ・ 皇居外苑管理事務所長挨拶、出席者紹介、配布資料の確認の後、下記の説明や意見交換等がなされた。

1. 勉強会開催の趣旨説明と進め方について

- ・ 資料 1-1、1-2 に従い事務局より説明。

2. 議事（敬称略）

（1）「千鳥ヶ淵再生プラン（仮称）」について

（事務局からの資料説明と質疑応答）

- ・ 資料 1-3「千鳥ヶ淵再生プラン（仮称）」に従い事務局より説明。質疑応答はなし。
- ・ 資料 2-1「千鳥ヶ淵を巡る歴史と特性」に従い事務局より説明。質疑応答はなし。
- ・ 資料 2-2「千鳥ヶ淵を巡る現況、課題と取組」に従い事務局より説明。千鳥ヶ淵の水質が悪い理由について質問があり、環境省より都下水道からの越流水流入が原因の一つとの説明があった。

（関連団体による千鳥ヶ淵環境再生に関する活動紹介や提案）

- ・ 国民公園協会からは、環境教育面での取り組みとして、皇居探訪セミナーの実施やウォーキングマップ等の印刷物の配布・頒布を実施しているとの説明があった。
- ・ 傍聴者 A は、千鳥ヶ淵の環境再生には、地元企業として深い関心を持っており、社会貢献を含め千鳥ヶ淵再生に向けメディアの特性を活かした貢献をしたいとの提案があった。具体的には行政、地域住民の連動により、再生されていく千鳥ヶ淵を広報することで、人々の関心を高め、運動を盛り上げていく。いまの千鳥ヶ淵の環境を巡る課題は 2 つあり、ソメイヨシノの老朽化対策と、水がきれいになった際の、昔乱舞していたというホタルの再生だとした。

（2）千鳥ヶ淵再生の将来像

- ・ ここからは、千鳥ヶ淵再生プランのあり方や千鳥ヶ淵の再生の将来像について会場全体で議論が交わされた。

①千鳥ヶ淵環境再生の指標の考え方

（西村）

- ・ ニューヨークのセントラルパークでホタルが飛んでいたのを覚えているが、千鳥ヶ淵で環境再生の指標としてホタルがふさわしいのか。

（関）

- ・ 自然再生では、目指す物差し（いつの時代に戻すのか＝リファレンス・ポイント、どんな生き物を呼び戻すのか＝指標種）の置き方が重要。さらに今回の課題は 3 つ（水質浄化、自然環境の向上、景観の向上）あるが、別々にとらえるのではなく、最初から一体で目標を定めることが重要。特に景観については、客観的、学問的なターゲットを設定するのが非常に難しく、合意形成が非常に大きな課題になる。

- ・ 住民にとって心地よい景観を再生するのか（園芸品種であるソメイヨシノの補植）と、自然環境の再生を目指すのか（ホタルの棲める環境づくり）では方向が異なるため、よく検討する必要がある。
- ・ また、従来生息していたものと遺伝的に異なるホタルを放流することは在来種保護の観点から問題である。
- ・ 今、自然再生に関する話題として、東京エリアにもトキとコウノトリが生息できるような空間を作っていこうという動きがある。資料2-1によると100年前には千鳥ヶ淵にもガンが飛来していたと書かれており、サクラやホタルだけでなく、もう少し夢のある目標設定も可能でないか。
- ・ 合意形成には、メディアの力が大きく、今回勉強会に入らせていただいていることは心強く思う。

（飛島）

- ・ ホタル生息に関する歴史資料は把握していない。牛ヶ淵等には今ホタルが生息しておりDNAを含めて調査により、在来型なのかどうかは今後判明する予定。
- ・ ただ、サンプル数が少ないので、時間はかかる、

（西村）

- ・ 現在千代田区の景観づくりに関わっている。千鳥ヶ淵と牛ヶ淵は、ほかの濠と状況が異なり、濠沿いに建物が建ち、人が住んでいる特徴をもっており、周囲の建物や緑道を歩いている人から風景がどのように見えるかということも非常に重要なポイントになる。

（関）

- ・ 資料2-1によるとこの場所は、もともと川で人工的に作られたもの。周辺地域全体で失われた自然を象徴的に戻すという考え方が必要になる。
- ・ なお、皇居の森には山手線内で唯一オオタカが繁殖しているが、こうした生態系ピラミッドの頂点に位置する生物の生息環境再生も、カラスやドバトの繁殖を抑えるための1つの視点となる。
- ・ 合意形成のためには、環境教育も重要である。

②千鳥ヶ淵周辺の観光利用と環境再生

（高山）

- ・ 千代田区による千鳥ヶ淵の活用は3つ（ボート場運営、さくらまつり、灯籠流し）。さくらまつりに続き夏にはホタルを見せたいという話も出たが、区民の意見も様々で合意形成には至っていない。

（飛澤）

- ・ 千代田区では、現在老朽化した「サクラ再生」に力を入れている。サクラ再生の基金は当初区が用意した5000万円を元手に年間500～600万円集まる寄付金も追加しながら、年間1000万円程度使用。

（関）

- ・ ソメイヨシノを植えることが悪いのではないが、自然環境を良くすることを目的に園芸種を植えることは間違い。景観の改善という意味で使うならいい。

（飛澤）

- ・ 自然環境の再生も重要だが、快適な都市づくりも重要。千鳥ヶ淵の環境再生という大きな話であるが、人間が活用している場所なのでソメイヨシノ再植やホタルを濠に飛ばすことを含め、人間にとって快適な環境づくりを目指すのか、今回はとりあえず水質改善にとどめるのか、あるいは民地との関係や土手の保全問題なども含め景観改善までを考えるのか、区としてもまだ十分整理できていない。

（岡田）

- ・ 観光協会では、イベント実施時を含め、常に環境と観光の調整を図っている。一方、千鳥ヶ淵の一部でホテルが飼えるのではないかと考えている。

③生物多様性地域戦略策定と環境教育

(大島)

- ・ この度、千代田区では生物多様性地域戦略を作ることになった。現状を調査し、3年かけて地域戦略を策定するが、その後も区民、企業を含めみんなでやっていく必要がある。今後地域策定委員会を立ち上げるので協力いただきたい。

(飛澤)

- ・ 昔区内に植えられていた樹種などを調べているがわからない。これまで都市化の過程で、人間にとって都合がいいものを選択し、人間に嫌われるものを排除してきた。これから生物多様性の考え方が浸透すれば、区民の意識も変わるのだろうが、今の段階で便利さや快適性を犠牲にすることがどこまでできるかが問題。

(関)

- ・ 生物多様性の価値に気付かせ、住民の意識を変えるのが、まさに環境教育で、行政だけでなくメディアなど様々なものを巻き込む必要がある。合意形成は、今ある人の意見を前提にするのではなく、どういう意見にすれば合意に近づけるかという道筋をつけることが重要。

④周辺街路の並木・街灯の統一なども課題

(西村)

- ・ 皇居周辺を一周する道路の並木・街灯を統一感がとれたものにしていくことも地域の課題の一つ。研究しているグループの意見も反映させ、考える必要がある。

⑤北の丸公園の管理上の課題

(小澤)

- ・ 北の丸公園側の土手上サクラは、千鳥ヶ淵緑道のサクラよりも若干新しいが、老木化して寿命がきており、更新を考えなくてはならない。サクラの管理は、環境省と千代田区は同じ立場。老朽化していて危険防止の観点からも伐採も含めて更新の方法を考えなければならないが、サクラの老木の伐採は反対の意見が考えられる。
- ・ 今後、環境教育を進めて公園管理への理解もあわせ浸透させたいと考えている。

⑥区民からみた景観問題について

(傍聴者B)

- ・ 千鳥ヶ淵の消防署（麴町消防署九段出張所）のある角の水質が非常に低下している。原因は、サクラの時期にゴミを捨てられるため。景観的にも見晴らしをよくしたいところだが、消防署が建っており見晴らしが悪い。外濠の弁慶橋も、アオコがひどく発生しているのでおいおいご配慮願いたい。

以上

第1回 千鳥ヶ淵の環境再生に関する勉強会 意見整理メモ

※:敬称略

1.基本的考え方

(1)目標のたてかた

- ・ (自然再生法に基づく) 自然再生の場合はリファレンスポイントと指標種の置き方が重要。(関)
- ・ 3つの課題(水質浄化、自然環境の向上、景観の向上)は一体のものとして目標定めるべき。(関)
- ・ 景観は合意形成のあり方が問題。(関)
- ・ 千鳥ヶ淵は人工的に作られた場所なので、周辺地域全体で失われた自然を象徴的に戻すことが考えられる。(関)
- ・ 千代田区では生物多様性地域戦略を作る。こちらとの協力もお願いしたい。(大畠)

(2)快適性と自然環境再生

- ・ 千鳥ヶ淵の課題は、ソメイヨシノの老朽化対策と、水の浄化に伴うホタルの再生。(傍聴者)
- ・ 住民にとって心地よい景観再生(ソメイヨシノ再生)と自然環境の再生(ホタルの住める環境づくり)を目指すのは方向が違う。(関)
- ・ 自然環境の再生も重要だが、快適な都市づくりも重要。今の段階で便利さや快適性を犠牲にすることに対してどれだけ区民の理解を得られるかが問題。(飛澤)

2.個別の事象について

(1)再生プランで対象とする範囲

- ・ 民地との関係や土手の保全なども含めるのか、対象範囲を明確にすべき。(飛澤)

(2)景観保全のポイント

- ・ 周囲の建物や緑道を歩いている人による風景の捉え方が重要。(西村)
- ・ 周辺街路の景観要素との調整も望ましい。(西村)

(3)合意形成へ向けての広報・環境教育の重要性

- ・ 地元企業として、千鳥ヶ淵再生は積極的に放送し、運動を盛り上げたい。(傍聴者)
- ・ 生物多様性の重要性に気付いてもらい住民の意識を変えるのが環境教育の役割。行政・メディアの協力が不可欠。メディアの申し出はありがたい。(関)
- ・ サクラ管理始め公園管理への理解・合意形成にも、環境教育の推進は欠かせない。(小澤)

(4)サクラについて

- ・ ソメイヨシノ再生は景観の改善という意味で植えるなら意味がある。(関)
- ・ 千鳥ヶ淵沿い・北の丸公園のサクラともに更新時期がきており、サクラ老木伐採は不可欠だが、反対意見がある。(飛澤・小澤)

(5)ホタルについて

- ・ 千鳥ヶ淵の一部でホタルが飼えるのではないかと考えている。(岡田)
- ・ 同じ種のホタルでも遺伝的に異なる国内外来種の放流は生物多様性の視点から問題。(関)
- ・ サクラやホタルだけでなく、もう少し夢のある目標設定も可能でないか。(関)

